

**2022年度（令和4年度）**  
**第3回 福山市環境審議会 議事概要**

**1. 日時等**

日 時 : 2023年（令和5年）2月2日（木）  
14:00～16:00  
場 所 : 福山市役所3階 議会棟3階 第5委員会室

**2. 出席委員**

西村和之 会長，中井智司 副会長，青山進 委員，生田政代 委員，岡部真智子 委員，川上富美子 委員，栗田貴生 委員，小林仁志 委員，澤田結基 委員，園尾俊昭 委員，辻和夫 委員，寺澤恵美 委員，平田教至 委員，八杉光乗 委員

**3. 欠席委員**

佐々木伸子 委員

**4. 議事**

- (1) 第二次福山市環境基本計画の改定について
- ・温室効果ガス排出量の削減目標について
  - ・再生可能エネルギーの導入目標について
  - ・第二次福山市環境基本計画（第2期計画）（基本目標1）（素案）
- (2) その他

**5. 議事要旨**

- 会議は公開で行われた。
- 事務局から，温室効果ガス排出量の削減目標について説明を行い，質疑応答を行った。
- 事務局から，再生可能エネルギーの導入目標について説明を行い，質疑応答を行った。
- 事務局から，第二次福山市環境基本計画（第2期計画）（基本目標1）（素案）について説明を行い，質疑応答を行った。
- 事務局から，福山市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）（第5期）改定の概要について説明を行った。

## (意見の概要)

### 温室効果ガス排出量の削減目標について

○「カーボンニュートラルポートの形成」とは何か。

⇒現在、様々な産業が集積している港湾施設の脱炭素化に向けた取組が、国が主体となり、全国で行われている。福山港についても、国、広島県が主体となって、カーボンニュートラルポートの形成に向けた準備会を立ち上げた。福山市としても一緒に取り組むことで、カーボンニュートラルポートの形成に努めていく。

○温室効果ガスの削減に関しては、企業・事業者の協力が不可欠である。計画を公表した際には、企業・事業者への周知をお願いしたい。

○資料1の11ページにある「⑥本市の各種施策の実施に伴う削減」について、それぞれの取組に関し、具体的な数値はあるのか。

⇒定量的な数値ではなく、各種取組によって削減することが見込まれる定性的な数値であるため、具体的な数値を持ち合わせている訳ではない。

○長期目標のカーボンニュートラルとあるが、どの程度の数値なのか。

⇒具体的な数値を持ち合わせているわけではない。

○カーボンニュートラルに関する数値については、徐々に情報を集めていく必要がある。「⑥本市の各種施策の実施に伴う削減」について、今後、削減根拠を整理した方が良い。

○「業務その他部門」というのはどのようなものをさしているのか。

⇒商業施設である一般オフィスビルや市役所等の事務所系のビルが主な施設になる。

○資料1の11ページにある「⑥本市の各種施策の実施に伴う削減」の取組について、市民の希望や要望も踏まえ、優先順位をつけて進めていければ良いのではないか。

### 再生可能エネルギーの導入目標について

○風力発電は、太陽光発電よりも発電コストの効率が良いとあるが、洋上風力発電を今後検討するのか。

⇒福山市で風力発電に適したような風がほぼない。洋上風力発電について、導入ポテンシャルには含まれていないが、福山市近郊の洋上に適しているかどうかは、現在把握しきれていない。

○洋上風力発電について、福山市の場合は、瀬戸内海に面し、船の重要な航路になっており、構造物を建築することが難しい。瀬戸内海国立公園に指定されており、景観が変わるという理由で、大規模洋上風力は難しいと思う。

○太陽光発電の推進に関し、補助金を出して導入拡大を図ることは考えているのか。

⇒太陽光発電等を推進するため、補助制度について検討している。

○太陽光発電は、将来的な再生可能エネルギーとして主力なものとして位置づけられている。必要な設置面積など、試算はあるのか。

⇒再生可能エネルギーの導入目標である1,034MWを太陽光発電のみで達成しようとした場合、家庭については、4～5kWで約48,000戸、事業所については40～50kWで約19,000事業所に設置する必要がある。

○2050年（令和32年）まで30年弱あり、既に存在する太陽光発電設備の耐用年数を考えると、更新時期を迎えるものも多いため、太陽光発電設備の維持についても検討しておく必要があると考える。

⇒適正なメンテナンスにより長く使っていくなど、現時点で国が明確なガイドライン等を出していないため、今後、注視しながら、事業者や市民へ情報を発信する。

○FIT制度が始まって以降、土地自体が国内外からの投資対象になっており、太陽光発電事業が急増している。その土地で太陽光発電事業が儲からないとなったら撤退されてしまい、荒地になるケースを聞いたことがある。新しく設置する事業者に対して、事業の継続性等を見るようにすべき。

○現在の原油価格の高騰を背景に、生産活動や事業所の活動の中で自家消費が位置付いていくのではないかと。自家消費が促進されるような再エネ設備の導入環境を作ってほしい。

⇒電気料金の高騰なども考慮しながら、自家消費型の太陽光発電や蓄電池の導入について支援していくよう検討している。

○再生可能エネルギーの導入目標に対して、福山市がどのように関わっていくか、踏み込んで考えてほしい。

○サーキュラーエコノミー（循環経済）に関する勉強会で、廃棄物エネルギーの利用について、国際的な動きがあるという話を聞いた。今後、国の方針や国際的な基準が定まってくると考え方が変わるため、最新の情報を仕入れてほしい。

#### **第二次福山市環境基本計画（第2期計画）（基本目標1）（素案）について**

○今後、基本目標1が実行されている6年間で、試算した数値目標に関して、実現達成度を確認する機会はあるのか。

⇒温室効果ガスの排出量の削減量に関し、毎年、福山環境白書で取りまとめ、ホームページ等でも公開している。温室効果ガス排出量は、公表データの都合上、4年前のデータが最新値となる。

○環境審議会で、目標の進捗状況に対する報告や審議の機会を検討してほしい。

○数多くの事業が計画されているが、他の計画との調整は図っているのか。

⇒それぞれ担当する部署があるため、庁内の関連する部署と調整しながら進めていく。

○具体的な施策について、個別計画や施策を一覧にするなど、市民にも分かりやすいような工夫をしてほしい。

○「森林の適正管理」という項目に「吸収源や涵養等の機能を維持する」という記載があるが、現状維持ではなく、一歩踏み出して、「整備の実施」という方向性はどうか。

⇒森林の適正管理については、「福山市農林水産振興ビジョン」に沿って、農林整備課とも連携しながら施策を進めていく。里山林が多く、今まで適正に管理されていないのが実情。適正に管理することで、吸収量が上がると想定しているので、まずは維持していく必要があると考えている。

○広島県では、下水処理の方法を緩和できるように、瀬戸内海の環境対策の方針について審議している。最新の情報を踏まえながら計画に反映できるようにしてほしい。

○ブルーカーボンに関して、産学と連携しながら検討を進めていただきたい。

⇒ブルーカーボンに関しては、福山市独自で進めることができないため、産学連携を図りながら検討を進めていくことを考えている。

以 上